

## 第 1 本市財政の現状と今後の財政見通し

平成 28 年度決算における本市の財政状況は、地方消費税交付金と普通交付税が大きく減少したことから、経常収支比率は 89.7%と前年度に比べ 3.7 ポイント悪化しました。

財政運営においては、経常一般財源が減少した一方で、年々増加する扶助費への対応や、物件費の増加によって生じた財源不足を補うために、財政調整基金からの繰入れを行いました。

平成 29 年度においては、歳入面で市税は低い伸び率になることが予想され、併せて普通交付税の算定においては、合併算定替の縮減率が 1 割から 3 割に拡大したことから、一般財源総額としては引き続き減少することが見込まれます。歳出面では、図書館空調設備改修、生涯学習センター・八日市場ドームの非構造部材耐震改修事業など公共施設の維持管理に関する事業の実施や病院事業会計への基準外繰出しが予定されており、財政調整基金から 3 億円以上の繰入れが必要な状況となっています。

平成 30 年度においては、歳入面で市税収入の増加は見込めず、地方交付税が総務省の概算要求で平成 29 年度と比較し 2.5%の減額となっていることに加え、合併算定替縮減率の一層の拡大により一般財源は引き続き減少することが見込まれています。

歳出面では、公共施設等の維持補修費や、広域ごみ処理施設の建設に係る負担金などが増加する見込みであることから、より厳しい予算編成となることが予想されます。

今後の財政見通しについては、市税の大幅な増収は見込めず、普通交付税については平成 32 年度をもって合併算定替が終了することにより、平成 29 年度から約 2 億 3 千万円減少する見込みである中で、パークゴルフ場整備事業などの大型事業が計画されていることから、一般財源の確保に最大限努めることと併せ、事務事業のゼロベースでの見直しなど、大胆な発想を持って歳出の削減に取り組んでいく必要があります。

このような本市財政の状況を職員一人ひとりが認識することと併せ、常に経営感覚を持ち、本市が将来にわたって持続可能な行政運営を行っていくために、限られた財源を効率的かつ効果的に配分し、市民にとって真に必要な予算編成を行うこととします。

## 第2 予算編成の基本方針

平成30年度予算の編成にあたっては、こうした財政状況を踏まえ、以下の基本方針に基づいて編成することとします。

### 1 骨格予算の編成

平成30年度予算の編成にあたっては、来年2月に市長選挙を控えていることから、当初予算においては経常的経費を中心とした通年予算としての骨格予算を編成することとし、一部の継続事業を除く政策的経費等の肉付けについては6月補正予算にて計上し、合わせて本格予算とします。

### 2 総合計画の着実な推進

匝瑳市総合計画で掲げた将来都市像の実現に向け、後期基本計画に掲げる6つのリーディングプランに沿った取組を推進します。

#### 《リーディングプラン》

- |            |              |
|------------|--------------|
| ①子育て応援プラン  | ④安心・安全プラン    |
| ②にぎわい創出プラン | ⑤「地域力」向上プラン  |
| ③環境保全推進プラン | ⑥行財政運営健全化プラン |

### 3 地方創生への積極的な取組

急激な人口減少の歯止めと地域の活性化を図るため、匝瑳市総合戦略に掲げた4つの基本目標の達成に向けた取組を推進します。

#### 《基本目標》

- ①地域における若者の雇用を創出する
- ②匝瑳市への定住促進を進める
- ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望を満たす
- ④地域との多様な連携を進める

### 4 財政健全化に向けた財政基盤の確立

第3次匝瑳市行政改革大綱及び匝瑳市財政健全化計画に掲げた取組を推進し、将来の財政運営を見据えた財政基盤の計画的な確立を図ります。

また、各課が主体的に事業の方向性を判断し、コスト意識の向上と質の高いサービスの提供による効率的な行政運営を行うため、一定の予算枠を各課に付与する枠配分方式を継続します。